

## **2016 年 11 月 11 日 留学生・外国人研究者のための交流会 開催**

11 月 11 日（金）、医科研の近くにあるレストランで、留学生・外国人研究者のための交流会を開催しました。当日は、留学生 22 名、外国人研究者 5 名、教職員等 7 名の合計 34 名が参加しました。

交流会は、国際交流委員長の渡邊すみ子先生のご挨拶と、中井謙太先生の乾杯で始まりしました。留学生、研究者、教職員皆が、各自で準備したスライド使って自己紹介をし、留学生からは日本に来て驚いたことや感心したことについて、また教職員からは留学生に驚かされたことや伝えたいメッセージが発表され、笑いの絶えない会になりました。

創作料理を楽しみながらの 2 時間はあっという間でしたが、帰り際には、連絡先を交換する留学生らの姿も見られました。

今回の交流会が医科研で研究活動を行う外国人同士のネットワーク構築の一助となることを期待しています。



## **2016 年 11 月 2 日 パスツール研究所との国際学術交流協定を更新**

2016 年 11 月 2 日（水）、医科学研究所（医科研）とパスツール研究所との間で国際学術交流協定更新に関する覚書が調印されました。調印式は、パスツール研究所 Brechot 所長の来日の機会に、パレスホテル東京にて、京都大学大学院医学研究科とパスツール研究所との間の調印式と同時に行われました。医科研とパスツール研究所は、2006 年に学術交流に関する協定を締結し、2011 年の更新を経て、今回が 2 回目の更新でした。

パスツール研究所は、人類の感染症との闘いに長い歴史と伝統を持つ、微生物学 や病原微生物研究の分野で世界をリードする研究所で、医科研とは共通の使命を持つ、非常によく似た研究所として、10 年以上に渡り感染症の領域や免疫学の領域で交流をはかり、関係を強化してきました。

今回の更新では、これまで培ってきた学術交流や共同研究をさらに発展させるため、従来の交流に加え、医科研とパスツール研究所とが共同で東京とパリの両方に国際共同研究ユニットを設立するという新しい条項も盛り込まれました。この理想的且つ新しいタイプの連携が、共同研究を加速させると共に、人員の交流も強化し、更には感染症の領域や免疫学の領域におけるグローバルネットワークの構築に寄与し、世界貢献の一助となることが期待されます。



## **2016 年 10 月 5 日 フランスリヨン大学より Fleury 学長、Pinton 学長ら来訪**

2016 年 10 月 5 日、フランスのリヨンより、クロード・ベルナール・リヨン第一大学学長およびエコール・ノルマル・スーペリユール・リヨンの学長ら計 7 名が、医科研に来所されました。

リヨン大学とは、フランス、リヨンおよびサンエティエンヌ地区に所在する大学が所属する学生総数 130,000 人以上を擁する大学連合体で、2007 年に設立されました。東京大学は 2015 年にリヨン大学と全学学術交流協定を結んでいます。今回訪日団が医科研に来所した理由は、リヨン大学のエコール・ノルマル・スーペリユール・リヨン、クロード・ベルナール・リヨン第一大学、そしてフランス国立応用科学院リヨン校と、東大の新領域創成科学研究科、分子細胞生物学研究所、そして医科学研究所の間で進められている学生交流プログラムに関する覚書の署名式に出席するためです。

その署名式に先立って、所内見学が行われました。一行は先ずスーパーコンピューター室を訪問し、山口類准教授から施設とプロジェクトの紹介を受けました。

次に感染症国際研究センターの動物実験施設で今井正樹准教授と岩附（堀本）研子助教から最新の研究内容について紹介を受けました。そして医科研病院では、今井陽一准教授から説明を受けました。

その後ミーホールにて、村上善則所長、武川睦寛副所長、川口寧副所長、新領域創成科学研究科味埜俊科長、同研究科メディカル情報科学専攻松田浩一教授、同研究科国際交流室松岡万里助教の出席のもと、覚書の署名式が行われました。また昼食会では、今後プログラムをどのように運営するか等について話し合いました。

今回の署名式で東大とリヨン大学の結びつきがさらに深まり、学生交流プログラムを活用した学生の交流が一層深められることを期待しています。



## **2016 年 7 月 11 日 中国広東省視察団、中山大学劉教授らと来訪**

2016 年 7 月 11 日、中山大学の劉教授と研究者ら、および中国広東省からの視察団の合計 8 名が、医科研に来所されました。

医科研は 2011 年に中国広東省広州市にある中山大学と国際学術交流協定を結び、感染症や癌などの研究分野において、共同研究を行ってきました。また、昨年 12 月には広州市視察団も来所し、日中の科学技術研究協力の更なる発展を目指し、話し合いを進めてきました。

今回は、本学と中山大学との国際学術交流協定の更新や、今後の共同研究について話し合いを行いました。また、医科研が中山大学のある広東省や広州市とどのように連携していくかについても、話し合いました。

話し合いの時間は 1 時間余りでしたが、今後ますます日中の連携が深まっていくことを期待しています。



## **2015 年 12 月 17 日 中国広州市視察団、中山大学研究者らと来訪**

2015 年 12 月 17 日、中山大学の劉教授と研究者ら及び中国広州市からの視察団の合計 11 名が、医科学研究所を表敬訪問されました。

医科研と中山大学は、感染症や癌などの研究分野において、10 年以上共同研究を行っています。2011 年には東京大学と中山大学との間で国際学術交流協定を結び、連携強化をはかってきました。今回は、日中の科学技術研究協力の更なる発展を目指して、中山大学のある広州市からの視察団が来所されました。

当日は訪日団と村上善則所長、川口寧副所長が医科研の歴史や中山大学との共同研究等について懇談しました。その後は所内見学として、ウイルス病態制御分野、病原微生物資源室、バイオバンク・ジャパン、近代医科学記念館を訪問し、最先端の設備や研究内容について説明を受けました。

全体で 2 時間という駆け足の訪問でしたが、今後の関係発展に役立つ意義深い時間でしたとの感想を訪日団から頂きました。

今回の視察が日中両国の相互理解や友好の一助となることを、期待しています。



## **2015 年 10 月 27 日 中国科学院微生物研究所所長ら 来訪**

2015 年 10 月 27 日、中国科学院微生物研究所の劉双江所長と馬俊才博士が医科学研究所を表敬訪問されました。

医科学研究所は、文部科学省の支援を受け 2005 年度から北京市に 2 拠点、ハルビン市に 1 拠点を置き、感染症に関する日中共同研究を推進してきました。2015 年度からは、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の支援の下、「感染症研究国際展開戦略プログラム」として、「中国拠点を連携中心とした新興・再興感染症制御に向けた基盤研究」を課題に研究を進めています。劉所長が代表を務める微生物研究所はこの共同研究のパートナーであり、中国の国家研究機関である中国科学院が統括する研究所の一つです。

当日は、村上善則所長、小澤敬也病院長、渡邊すみ子国際交流委員長らを交えた懇談の席で、お互いにこれまでの連携研究に謝意を述べるとともに、これからの更なる連携強化を確認しました。

また、今後の共同研究の展望について、中国拠点の川口寧研究代表、井上純一郎北京拠点長、北京プロジェクトオフィスの林光江特任教授らとの話し合いが行われました。

その後劉所長と馬博士は所内見学として病原微生物資源室、スーパーコンピューター室、バイオバンク・ジャパン等を訪問され、研究内容や最新設備の説明を熱心に聞いていらっしゃいました。

この来訪が共同研究活動を通じた日中友好の一助となることが期待されます。



## ”さくらサイエンスプラン マレーシア訪日団” 報告記事

科学技術振興機構の日本・アジア青少年サイエンス交流事業「さくらサイエンスプラン」を利用して、マレーシアから若手研究者ら 5 名が 2015 年 9 月 7 日（月）から 7 日間の日程で医科学研究所に来訪されました。来訪者は、マラヤ大学大学院生 2 名、マレーシアプトラ大学講師 1 名、マレーシアサインズ大学教授 1 名、マレーシア科学アカデミー職員の計 5 名でした。

一行はまず近代医科学記念館を見学し、北村俊雄館長から本研究所の歴史について紹介を受けました。その後所内見学として、先ずバイオバンク・ジャパンを訪れ、松田浩一教授からその仕組みや規則について説明を受け、血清バンクと組織バンクを見学しました。次に疾患プロテオミクスラボラトリーを訪れ、質量分析計を見学し、尾山大明准教授より説明を受けました。そしてスーパーコンピューター室では、山口類講師から、施設とプロジェクトの紹介を受けました。

翌日は来訪者が各自の研究についてプレゼンテーションを行った後、約 2 日をかけて、DNA 情報解析分野、感染遺伝学分野、分子療法分野、公共政策分野の各ラボにて研修を受けました。研修では多岐にわたる質問が数多く出され、非常に活発な意見交換の機会となりました。

また一行は、かずさアカデミアパークにある公益財団法人かずさ DNA 研究所及び Green Earth Institute 株式会社も訪問しました。ここでも最先端の設備や技術について見学・説明を受けました。

今後益々相互に訪問する機会が増え、日本とマレーシアにおける若手研究者の親交がさらに深められることを期待しています。



## 2015 年 5 月 14 日 フランス・リヨン大学 教授ら 4 名 訪問

2015 年 5 月 14 日、フランスのリヨン大学より、Renaud Mahieux 教授ら 4 名が医科学研究所を表敬訪問されました。

Prof. Renaud Mahieux (Director of the Biology Department, ENS Lyon)

Prof. Dominique Baas (Director of the master's program Biosciences, ENS Lyon,  
CGPhiMC- Center for Molecular and Cellular Genetics and  
Physiology, Université Claude Bernard Lyon1)

Prof. Caroline Moyret-Lalle (Assistant Professor, Director of Oncology master's program,  
Université Claude Bernard Lyon1)

Prof. Philippe Clézardin (Director of Laboratory INSERM UMR 1033, LabEx DEVweCAN)



## 2015 年 4 月 10 日 オーストラリア・ニューキャッスル大学より 来訪

2015 年 4 月 10 日、オーストラリアのニューキャッスル大学より、講師、大学生及び事務職員ら合計 11 名が医科学研究所を訪問されました。

当日は近代医科学記念館を見学後、武藤香織教授によるレクチャーを受けていただきました。一行は、バイオバンク・ジャパンを見学し、松田教授より最先端の設備について説明を受けた後、別途設けられた質疑応答にて、活発に質問をされていました。



## ノーベル賞受賞者リチャード・ロバーツ博士による特別講演を開催

2015 年 3 月 2 日（月）、医科学研究所にて、1993 年ノーベル医学生理学賞受賞者のリチャード・ロバーツ博士をお招きして講演会を開催しました。この講演会は、2012 年より毎年スウェーデンにおいてノーベル賞授賞式の時期に開催されている一般向けの公開シンポジウムである「Nobel Week Dialogue」をスウェーデン国外で初めて開催した「ノーベル・プライズ・ダイアログ・東京 2015」に参加されるためにロバーツ博士が来日された機会をとらえての開催となりました。ノーベル財団（ノーベル・メディア AB）による Nobel Prize Inspiration Initiative の一環として、講演会に加えて、学生を交えたラウンドテーブルディスカッションも開催されました。

講演会では、"Bacterial Methylomes" のタイトルで、バクテリアの DNA メチル化転移酵素に関する最新の研究成果についてご紹介いただきました。ロバーツ博士は、現在 Pacific Bioscience 社の SMRT シークエンス技術を利用して DNA メチル化転移酵素の認識配列やバクテリアゲノムのメチル化状態の網羅的な解析に取り組んでおられます。これらの研究によって、新規の DNA メチル化転移酵素の認識配列の同定やその生物学的な機能解明につながるという最新の成果をご紹介いただきました。ラウンドテーブルディスカッションでは、医科学研究所及び新領域創成科学研究科メディカルゲノム専攻の教員・研究員・大学院生に加えて、上智大学の大学院生にも参加していただきました。博士の研究内容にとどまらず、科学に興味を持つようになった子供時代のお話、研究者としての姿勢や大学院卒業後の進路のアドバイスなど、多岐に渡ったお話をいただき、ノーベル賞受賞者に非常に近い距離で質問できるという学生にとってまたとない機会になりました。講演会には本学教員・研究員・大学院生を中心に 115 名の参加がありました。また、講演会終了後にはトミーホールにてレセプションも開催され、参加者同士の交流を深めることができました。



リチャード・ロバーツ博士



リチャード・ロバーツ博士講演の様子



ラウンドテーブルディスカッション

## **2014 年 12 月 2 日 中国青年代表团 医療衛生分団来訪**

科学技術振興機構の日本・アジア青少年サイエンス交流事業「さくらサイエンスプラン」を利用して、公益財団法人日中医学協会の招聘で訪日している中国の若手研究者らが、2014 年 12 月 2 日（火）午後、医科学研究所を訪問した。訪日団は 1 週間の視察旅行を目的として来日されており、医科学研究所が一ヶ所目の視察場所であった。訪問者は、中国若手研究者、医療関係者、学生、公益財団法人日中医学協会の世話人の計 31 名で、全員が将来を担う若い世代であった。

一行はまず近代医科学記念館を見学し、北村俊雄館長から本研究所の歴史について紹介を受けた。その後附属病院 8 階会議室にて清野宏所長、小澤敬也附属病院長、アジア感染症研究拠点長の岩本愛吉教授よりそれぞれ本研究所、附属病院、中国拠点プログラムについての紹介がされた。多岐にわたる質問が数多く出され、非常に活発な意見交換の機会となった。その後、BioBank Japan を見学し、松田浩一准教授から施設とプロジェクトの紹介を受けて終了となった。全体で約 2 時間の駆け足の訪問であったが、日中双方から大変貴重で意義のある交流ができたという感想が寄せられた。今後益々相互に訪問する機会が増え、日中間の親交がさらに深められることを、期待している。



## **東京大学国際交流イベント「知ろう！知り合おう！白金台キャンパス」を開催**

10月31日(金)、第1回東京大学国際交流イベント企画コンテストで採択となった企画「知ろう！知り合おう！白金台キャンパス」を開催しました。この企画では、日本人学生、外国人研究者、留学生を対象に、医科学研究所(医科研)記念館で医科研の歴史を学ぶ「知ろう！白金台キャンパス」と見学後の懇談会「知り合おう！白金台キャンパス」を組み合わせた、医科研を中心とした人的ネットワーク作りを提案しました。当日は、日本人学生16名、留学生25名、外国人研究者6名、教職員等9名の合計56名が参加しました。そのうち、インターナショナル・ロッジ白金台(白金台ロッジ)からは、相談主事の先生と学生6名の合計7名の参加がありました。近代医科学記念館での「知ろう！白金台キャンパス」では、大学院生の代表が、伝染病研究所時代の写真をモニターに映しながら説明し、医科研創立122年の歴史について紹介しました。その後、記念館の展示物を見学し、当時の医科研についてより深く知って頂くことができました。



レストランでの「知り合おう！白金台キャンパス」では、できるだけ多くの人と知り合っていただけるよう、同一研究室や研究科、ロッジ在住者が特定の組に偏らないよう配慮して事前にグループ分けをしました。グループごとに自己紹介をし、そのグループ単位で競うグループ対抗クイズを行いました。本学や医科研に関する問題を多く出題したので、本学や医科研についての知識を深め、愛着を持って頂くことができたのではないかと思います。またグループ内で相談して回答するクイズも出題したので、参加者同士の多くは当日知り合ったばかりであったにもかかわらず、グループ内で団結してクイズに挑戦し、大いに盛り上がり、笑い声が絶えることがありませんでした。その後、白金キャンパス内を歩いている時や生協食堂で食事をしている時に、参加者同士であいさつし合う光景が散見され、「知り合おう！白金台キャンパス」をきっかけに交流の輪が大きく広がったことが実感できました。

今回は全学の国際交流イベントとして開催することで、所内イベントの枠を超えて、白金台ロッジ在住者を参加対象に加えることができました。白金台ロッジ在住者とも普段から交流することで顔見知りになっていれば、地震等の災害時にすぐに協力し合うことができると思います。また、白金台ロッジ在住者にも医科研に愛着を持って頂くことで、安心して生活することができるようになるのではないかと思います。今回築いた白金台ロッジ在住者の方々との人的ネットワークと信頼関係を維持・発展できるよう、今後も取り組んで行きたいと思います。



## 2014 年 9 月 5 日 パスツール研究所代表团 来訪

2014 年 9 月 5 日、パスツール研究所 Pr. Christian Brechot 所長率いる代表团 4 名が医科学研究所を訪問されました。

訪問者

パスツール研究所 所長 Pr. Christian Brechot

パスツール研究所 国際部部长 Dr. Marc Jouan

ラオスパスツール研究所所長 Mr. Paul Brey

フランス大使館 科学技術アタシェ・生命科学担当

Mr. Cédric Guillerme



## 2013 年 9 月 医科研-韓国順天卿大学 国際学術交流協定調印式

2013 年 9 月 26 日韓国・順天卿大学（Soonchunhyang University）の Kyo-il Suh 学長らが来所され、所長室にて学術交流協定の調印式を行いました。

本協定締結を端緒として、教職員や若手研究者の交流、共同研究の実施、シンポジウムの開催などを行い、両機関の学術交流を一層推進していくことを双方で合意しました。調印式の後には、臨床 FACS コアラボラトリー、ステムセルバンク、附属病院、細胞リソースセンターなど所内を見学いただきました。



（上段左から）Jin-Ri Kim 先生 東條副病院長 大津先生 Kuk Won Kim 先生 Jeongbin Yim 先生  
今井病院長 三宅副所長 渡辺（す）先生 渡辺（信）先生 紺野部長  
（下段左から）Seung Woo Kim 副学長 Kyo-il Suh 学長 清野所長 村上副所長



（上段左から）及川副課長 東條副病院長 今井病院長 三宅副所長 Jin-Ri Kim 先生 大津先生  
渡辺先生 紺野部長  
（下段左から）Kuk Won Kim 先生 Seung Woo Kim 副学長 Kyo-il Suh 学長 清野所長  
Jeongbin Yim 先生 村上副所長

## **2013 年 6 月 17 日 韓国順天卿大学代表团 来訪**

2013 年 6 月 17 日、韓国順天卿大学より、Jeongbin Yim 教授、Jim Ri Kim 先生が医科学研究所を訪問されました。 所長室にて打ち合わせの後、MucoRice 栽培システム、FACS コアラボ、iPS 研究の見学をされました。

訪問者

順天卿大学メディバイオ科学研究所 Prof. Jeongbin Yim

順天卿大学中央医療院・国際診療センター Dr. JinRi Kim



## **2013 年 3 月 22 日 バーレーン王国 Arabian Gulf University 代表団 来訪**

2013 年 3 月 22 日、より、バーレーン王国 Arabian Gulf 大学より Khalid A. N. Al Ohaly 学長及び Khaled S. Tabbara 副学長が、SBI Pharma より中島元夫取締役らが医科学研究所を訪問されました。

所長室にてご挨拶いただいた後、一行は医科研附属病院、DNA 倉庫、スーパーコンピュータ室、MucoRice 栽培室システムを見学した後、改めて所長室で清野宏所長、今井浩三病院長、東条有伸副病院長と懇談をされました。 今回の視察が両国の相互理解や友好の一助となることを、期待しています。

### 訪問者

Arabian Gulf University 学長 Dr. Khalid A. N. Al Ohaly

Arabian Gulf University 副学長 Dr. Khaled S. Tabbara

SBI Pharma CSO 中島元夫取締役

他 1 名

